



農業委員会だより

No. 30 2020年10月発行

編集/発行 本別町農業委員会

会長 牧田 安史

本別町北2丁目4番地1 TEL22-8125

新体制で頑張ります！

一列目左から、中野康夫委員、河野一紀会長職務代理者、
牧田安史会長、川初光章委員、大和田和盛委員
二列目左から、荒哲弘委員、井出英彦委員、齋等委員、
高橋秀和委員、齊藤一成委員
三列目左から、石山ひろのり委員、山下博志委員、
福田博明委員、牛渡広和委員、岡本昌久委員



会長就任にあたって

本別町農業委員会

会長 牧田 安史

日頃より農業委員会の活動に対し、ご理解、ご協力を賜り心からお礼申しあげます。

7月20日の改選により、15名の農業委員が任命されました。第1回総会において委員の互選により会長の職を務めることとなりました。農業者、関係機関の皆様のご支援を頂きながら務めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

そして「温暖化」と向き合い、社会のあり方、人々の生き方を見直す「転機」となる年となっているように思えます。そして自国で食料を生産するという農業の重要性が再確認できた年ともなっているように感じます。



本別町の農家戸数は減少傾向にあります。本別町の農業の振興と農地を守ることを目標とし、農業委員が力を合わせて未来を見ながら取り組んでいきたいと考えています。皆様のご理解、そしてご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

最後にありますが、皆様方が健康で事故もなく、豊穡の秋を迎えられることを切望して、就任の挨拶とさせていただきます。

各部会の構成を紹介します

本別町農業委員会では専門部会を作り、研修や課題の審議、「農業委員会だより」の発行などを行っています。

○農地部会

部長 大和田 和盛
副部長 荒 哲弘
部会員 高橋 秀和
岡本 昌久
牛渡 広和
齊藤 一成
齋 等
福田 博明

○農業振興部会

部長 川 初光章
副部長 井出 英彦
部会員 石山 ひろのり
山下 博志
中野 康夫

仕事

農地法・農業経営基盤強化促進法に基づく、農用地の利用関係の調整、及びその他農地に関する事項について。

活動計画

- ・評価モデル農地の確認
- ・評価表、評価基準等の検討、確認
- ・農用地利用状況調査（農地・パトロール）の実施
- ・学習会、管外研修の実施



仕事

農業に関する振興計画、農業構造改善対策及び意見の公表等に関する事項について。

活動計画

- ・必要に応じ懇談会を開催
- ・農業者年金研修の参加
- ・農業者年金の加入推進
- ・管外研修の実施

○広報委員会

委員長 齊藤 一成
副委員長 中野 康夫
委員 川 初光章
井出 英彦

仕事

農地政策をはじめ農政の状況、農業委員の活動について、農業者に対し、正確かつ新鮮な情報を提供していくために、農業委員会だよりを発行する。

活動計画

- ・農業委員会だよりを年2回発行と全戸配布
- ・より親しみやすい紙面作り
- ・各部会との連携強化



氏 名（自治会）	担 当 地 区
高橋 秀和（清里）	西仙美里、新生、明美、月見台、清里
岡本 昌久（押帯）	勇足西4、押帯
牛渡 広和（活込）	拓農、活込
齊藤 一成（チエトイ 2）	負籬 1・2、チエトイ 1・2
河野 一紀（勇足西 2）	勇足西 1・2・5
石山ひろのり（美里別東下 1）	美里別東下 1・2、高東
大和田和盛（美里別西上）	美里別西上、東上
齋 等（東本別）	本別市街、共栄、共栄 1、東本別、上本別
福田 博明（美蘭別）	上押帯、美蘭別
山下 博志（勇足東 5）	勇足東 1～東 5
荒 哲弘（美里別東中）	弥生町、美里別西中・東中
中野 康夫（仙美里 2）	追名牛、木札内、東仙美里、仙美里 1・2・3、上仙美里、奥仙美里、美栄

農業委員の担当地区を 紹介します

農業委員には、それぞれ担当する地区が決められています。農地の売買や相続など、なにか困ったことがあれば担当地区の農業委員会にご相談ください。

新しい農業委員です！

今回の改選で、新たに任命された農業委員です。

福田 博明委員（美蘭別）

農業委員として、地域農業の将来を見据え諸先輩方から学び、見識を高めていきたいと思っています。
微力ではありますが、皆さんと協力し合い本別町農業の多様性と持続可能な農業経営のお手伝いができるように頑張ります。

井出 英彦委員（新町）

この度、農業委員の任命を受け、改めて責任の重さを受け止めているところです。

農業を取り巻く課題や問題がある一方、新型コロナウイルス感染症拡大や大雨による自然災害等によりあらゆる分野での混乱と混乱の中で農業委員としての経験はありませんが、丁寧に誠意を持って務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

牛渡 広和委員（活込）

地域の推薦を頂き農業委員を仰せ付かり光栄に思うと同時に身に余る大役に戸惑いを隠せずにあります。

昨今の情勢を鑑みますと農業は異常な気象に左右され、景気、消費、コロナと困難の連続ではあります。が、手腕の見せ所でもあります。先人の念い（おも）を如何に伝誦（でんじゆ）すべく、先輩委員の指導を仰ぎ奮闘して参りますので、今後とも宜しくご鞭撻賜れば幸いです。

高橋 秀和委員（清里）

西仙美里地区より推薦で就任することになりました。

本別町の農業の発展のお手伝いを微力ながらできればと、考えております。

農地のことなどでお邪魔することがあるかもしれませんのでそのときはよろしくお願いいたします。

大和田 和盛委員（美里別西上）

15年ぶりに、農業委員を受ける事になりました。2期6年間、先輩委員の皆様にご大変お世話になり、ご指導頂きましたが、体調を崩して委員を下りました。15年の間に農業、酪農は大型化し、なにより農家戸数の減少、農業の担い手の減少、地域、集落の過疎化など、本別町農業の諸問題が緊急の課題として上げられています。

任期中にひとつでも未来に向けて、また、若い農業者が夢を持てるような農業を応援できるように農地の番人としての役割を果たし、頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

岡本 昌久委員（押帯）

農業委員という大役を任せられ、初めての事なので先輩方の皆様に教えていただきながら3年間頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

山下 博志委員（勇足東5）

この度、農協の代表として農業委員を受けることになりました。
農業を取り巻く情勢が、厳しさを増す中、また、後継者不足など、様々な問題を抱えています。

このような中、少しでも本別町農業のために尽力していきたいと思っています。
3年間よろしくお願いいたします。



◇リモート研修会を開催◇

8月27日、役場会議室において本別町農業委員全員を対象としたリモート研修会が開催しました。

本来であれば帯広市に会場を設け全十勝地区の新任農業委員を対象にした研修会が開催されるはずでしたが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったため、本別町農業委員会では北海道農業会議と連絡を取り本別町単独でのリモート研修を開催することとしました。

講師には北海道農業会議の乾泰司事務局長が農業委員会の制度と組織の概要についてと農地法についてわかりやすく説明して頂きました。北海道農業会議では初の試みとなり、コロナ禍において、今後各種研修会での活用も必要といえます。



リモート研修の様子

◇委員間の評価基準を共有◇



評価基準を確認しました

今回の改選で新しく6名の農業委員が就任しました。

このため、8月27日に農業委員全員が参加し、農用地利用調整の現地調査の「目ならし」を行いました。

現地調査は農地の価格を決定するのに非常に大事な調査であり、当日は午前9時からチエトイ2の圃場でそれぞれの班に分かれて表土の厚さ、礫の有無など10項目について、土地評価表に基づき模擬評価を行いました。

その後全体で各班ごとの評価方法を発表して意見交換を行い情報共有し、今後の調査活動につなげて行くことを確認しました。

農業者年金で老後への備えを！

農業者年金は、積み立て方式のため積み立てた分を必ず受給することができます。保険料は2万円から6万7千円まで（千円単位で）加入者が自由に選択でき、保険料の額はいつでも変更することができます。月々の掛け金を大きくすることで、将来の受給額を増やすことができます。また、保険料は全額社会保険料控除の対象となり、所得税・住民税の節税となる優遇措置があります。

農業者年金へは、①国民年金第1号被保険者、②年間60日以上農業に従事、③満60歳未満、これら3つの要件を満たす方ならどなたでも加入できます。

農業者年金に関するご相談・お問い合わせは、農業委員会またはJAへ

農業委員会 電話 22-8125

編集後記

今年も収穫の秋を迎えましたが、見事に天気が安定しません（泣）。ここ数年は、春から天候の変動が激しい年が続いています。農業は天候との戦いですが、人が天候に勝てる訳もなく・・・ですが、先人からの技術の蓄積で、このような天候変動にも対応していきます。十勝農業の底力だと思っています。

今年は、新型コロナウイルス（COVID-19）により生活様式が一変、僅か数カ月で全世界に広がって行きました。昔なら、イチ風土病としてその地区のみの病気だったものが、グローバル化の現代では人、物の流れが血液のように、このウイルスを世界に広げる事となりました。

このコロナの影響で、人の移動、モノの流通が滞っています。モノの流れは食料も例外ではありません。この春先には、輸出に回すのではなく自国に留める動きもありました。食料の輸入が60%を超える日本は死活問題です。海外の安い労働力に依存してきた日本は改めて、考え直さなければならないのかも知れません。

最後になりますが、近年、本町でも農地の流動化が多くなってきたと実感しています。農地の維持は食料の確保のみならず、大雨などによる治水の役割も担っています。これからも気を引き締めて職務にあたりたいと思います。